

水稻生育情報 (No.5)

令和5年7月13日
茨城県西農林事務所経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

5月から7月第2半旬までの気象は、平均気温が平年より0.8℃高く、降水量は平年比161%、日照時間は平年比114%となりました。

7月10日時点の管内の水稻定点圃場における「コシヒカリ」の生育状況は、草丈は平年よりやや高く、茎数は平年よりやや少なく、葉色は平年よりやや淡くなっています。幼穂長からみた出穂予測日は、平年並～やや早くなる見込みです(表1)。

表1 水稻定点調査結果(7月10日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植日 (月日)	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉色板) (SPAD値)	幼穂長 (mm)	出穂予測日 (月日)
筑西市	5月5日	55	86	420	3.5 32.2	10.4	7月27日
一本松	(5月4日)	(51)	(79)	(470)	(4.0) (34.2)	(3.3)	(7月29日)
下妻市	5月1日	46	88	539	3.7 30.7	46.7	7月23日
加養	(4月30日)	(47)	(84)	(527)	(3.7) (34.4)	(14.3)	(7月26日)
桜川市	5月9日	51	81	374	3.3 32.3	4.8	7月29日
真壁町飯塚	(5月5日)	(51)	(79)	(526)	(3.8) (33.6)	(3.3)	(7月30日)

※()内は平成30～令和4年の5カ年平均値

※出穂日は今後の天候により前後する場合があります。

【今後の管理のポイント】

1 水管理

出穂期30日後(5月上旬移植で8月末まで)までは間断かん水を続け、根に酸素と水分を与え、粒を大きくしましょう。

2 いもち病対策

7月中旬は曇りや雨の日が多く、いもち病が発生しやすい気候の見込みです。現在、密植で風通しの悪い圃場や山際の圃場等でいもち病の発生が確認されています。上位葉(止め葉から1~3枚目)で発生が認められた場合は、速やかに防除を行いましょう。



葉いもち(引用:
茨城県病害虫防除所)

3 カメムシ類対策

カメムシ類が出穂期~糊熟期にかけて穂を吸汁すると、不稔粒や斑点米の発生につながります。

●除草

出穂前は畦畔等のイネ科雑草に潜んでいるので、除草により生息密度を下げましょう。なお、出穂直前の除草はカメムシを水田内に追い込む事になるので、除草は出穂2週間前までに行いましょう。

●農薬による防除

①不稔・しいなの発生防止を目的(成虫が対象)とした

防除適期:出穂期~穂揃期

この時期に成虫を多く確認した場合は、防除を実施します。

②斑点米の防止を目的(幼虫が対象)とした防除適期:出穂後10~15日頃(乳熟期)

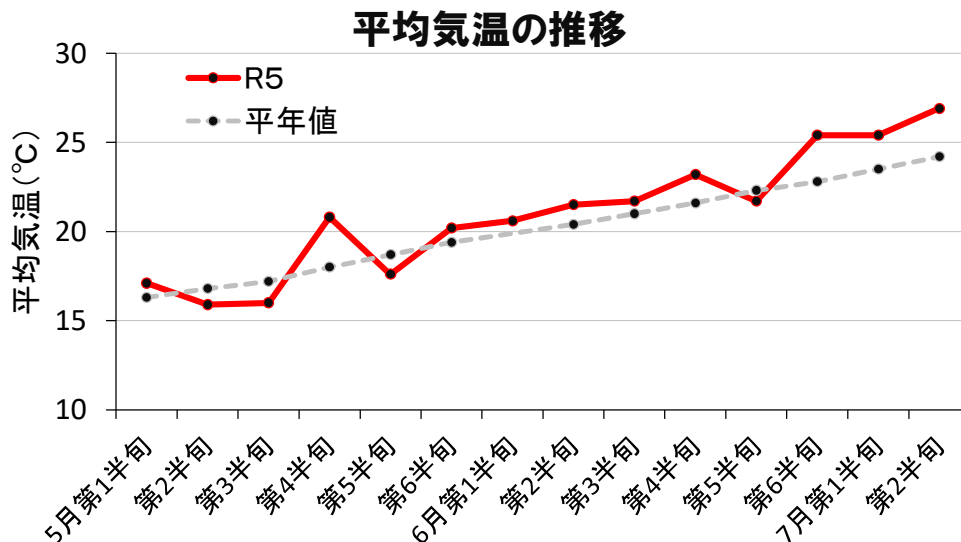
乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生が増えることから、この時期に防除することが重要です。



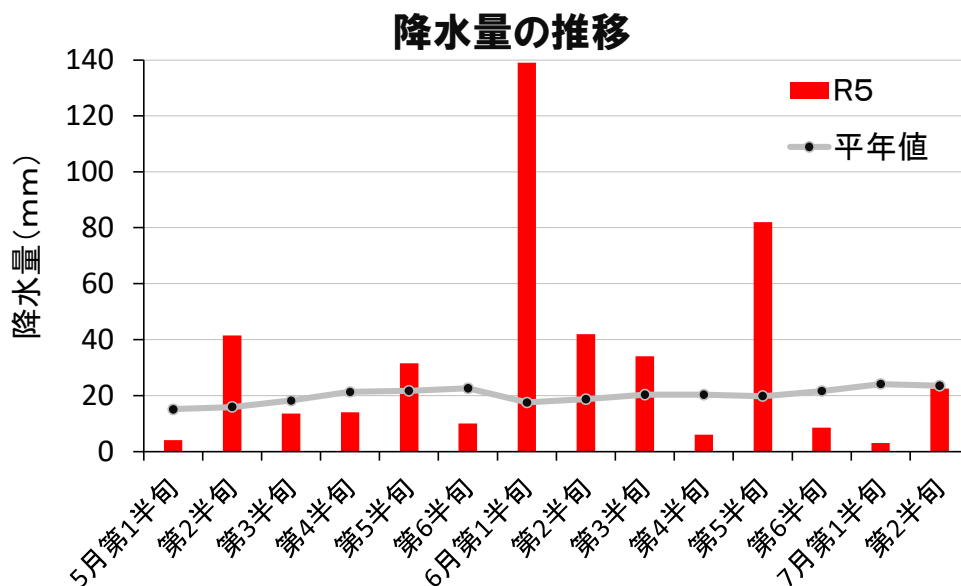
クモヘリカメムシの成虫と幼虫

参考（気象データ：アメダス下館地点。平年値は 1991～2020 年の値。）

① 日平均気温



② 降水量



③ 日照時間

